

# 港中だより

伊勢市立港中学校 No.7

R6. 9. 19

校長 清水 能人

## ◇全国学力・学習状況調査結果について◇

4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果が8月末に公表されました。この調査は3年生のみのもので、今年度は英語がなくなり、国語・数学の2教科の実施となりました。また、生徒質問用紙を用い教科以外の生活への関心なども調査をしました。つきましては、港中学校の今回の結果について報告いたします。

国語については、全部で15問あり、平均正答数は全国で8.7問、三重県は8.5問、港中は7.3問となり、全国・三重県平均より1.2~1.4ポイント程下回りました。数学については、全部で16問あり、平均正答数は全国で8.4問、三重県は8.4問、港中は7.5問となり、全国・三重県より0.9ポイント程下回りました。

今回の調査はこれまで（主に中学校2年生まで）の学習内容に関する理解を確認するためのものですが、未消化になっている部分がわかってきたと思います。そのまま放っておくのではなく、今のうちに確認するいい機会にしてください（3年生のお子様には新学期が始まったタイミングで、今回の学力調査個人票を渡します）。結果が平均より良かったかどうかだけでなく、どの問題が正答でどの問題が誤答だったかがわかるので、問題を見て振り返ってもらおうとよいかと思います。これからも3年生のみなさんはもちろん、1、2年生のみなさんも学校の授業を中心とした学習に励んでください。

### 1. 学力調査でわかってきたこと

国語、数学両教科において全国平均・県平均を下回っていましたが、大きな開きではありませんでした。今回の調査の結果、「思考し判断することと、まとめたものを表現（説明）すること」についての課題が見えてきました。「自分の考えをまとめること（要約すること）」、そのことについて説明・証明すること（説明を完成させること、また自分の考えを書くこと）を問われる設問において、得点が全体的に伸びませんでした。今後改善していく手立てとして、自分の考えを根拠付けて伝える（説明する）ことができるよう「伝える力」を授業において育てていきたいと考えています。港中学校では、今回学力調査を行った国語科、数学科だけでなく、他教科の授業においても、言葉や文章での主体的な対話活動（課題解決型のグループ活動等）を通し、深い学びにつなげていく場面を盛り込んでいます。授業において様々な課題を解決する場面を設定し、対話（言語）活動を積極的に取り組むことによって改善してまいります。また、問題文から何を問われているのかを理解する力（読み取る力）を培うためには、読書の習慣が大切です。すぐに身につく力ではありませんが、授業だけでなく、新聞など自分の興味がある記事だけでもいいので、ある程度活字数のあるまとまった文章を目で追いかける（活字に慣れる）練習を日ごろから続けていくことが大切です。また、書店で本を購入したり、借りに行かなくても、費用がかからず利用できる「電子図書（タブレット端末内にあるアプリです。伊勢市がライセンス契約をしています）」も是非ご利用ください。

また、港中だよりNo.5でも紹介させていただいた、学習アプリ「ドリルパーク」を家庭学習・自主学习等、振り返り学習、そして予習等に引き続きご利用ください。

### 2. 学習状況（生徒質問）・学校調査について

※生徒質問用紙から全国と比較して積極的な部分、改善点を報告します。

○積極的な部分

（国語が好き 72.5%【全国平均 64.3】 理科が好き 77.6%【全国平均 68.3】）

- ・自分には良いところがある。 89.7%【全国平均 83.3】
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか 96.5%【全国平均 95.2】
- ・人が困っているときは進んで助ける。 93.1%【全国平均 90.1】
- ・いじめはどんな理由があってもいけないこと。 96.6%【全国平均 95.7】

・学校に行くのは楽しいですか。 93.1%【全国平均83.8】

・友達関係に満足していますか。 93.1%【全国平均90.1】

◎教科への興味・関心度も比較的高いことと、仲間意識、自己肯定感も高いことが窺われます。

◎タブレット端末を活用して学習することに対して、メリットがあったとの回答が8項目すべてにおいて全国平均を上回っており、端末を使用した学習が本校生徒にとって使い勝手の良いものであることがわかりました。前回の学校だよりにおきまして、港中学校の生徒の家庭学習を含めた端末の使用率が非常に高いことについてお伝えしましたが、続けることによって今後の成果につながることを期待されると考えています。また、授業での積極的な活用を続けていきます。家庭学習におきましても引き続き活用くださいますようお願いいたします。

#### ○改善点

##### ・家庭学習の重要性について

中学校の学習内容は小学校とは違い、授業で学習した内容を家庭学習によって定着させることが必要になってきます。家庭学習を平日3時間以上勉強する割合は、全国9.2%、港中13.8%でした。また、2時間以上3時間未満は全国22.5%、港中20.7%でした。休日は全国15.5%、港中17.3%でした。家庭での学習時間は、平日の2時間以上3時間未満を除き、全国平均より上回っていることが示されています。しかし、平日家庭学習時間「1時間以上2時間より少ない」生徒の割合が全国平均値よりも5.3ポイント多いことと、土日学習時間「1時間より少ない+全くしない」の割合が県平均値よりも7.4ポイント多いということもわかってきました。このことから、家庭学習は行っているが、2時間以上家庭学習を行っている人と、行っていない人との差があるということです。学期末での集会で、学習の基本は「予習」であることと、大体3回ほど繰り返し確認すると頭に残るということも生徒に伝えました。予習（家庭学習）で1回目、授業で2回目、復習（家庭学習）で3回目のサイクルを続けることで定着度が実感できると思います。実行してみてください。未消化のまま終わらせているところがある人は、復習を中心に家庭学習を行ってほしいです。今からでも遅くはありません。復習のやり方としては、学習アプリを使ってください。それでもわからない時には先生に聞いてください。

##### ・タブレット端末の活用について

上記でもお伝えしましたが、タブレット端末を活用して学習することに対して、有効性を感じているとの回答がありましたが、授業以外での家庭学習におけるタブレット端末を毎日活用している生徒が全国平均36.4%、港中39.6%でしたが、全く使っていないと回答している生徒が全国平均28.4%、港中36.2%となっていることもわかってきました。学習に有効であると理解しながら、全く活用していない人もいるということです。効率的な学習アプリを家庭学習（予習・復習）の中に盛り込むことによって、学習内容の定着と確認に役立ててほしいです。

### 3. 今後の取り組みについて

本校では調査の結果をしっかりと受け止め、積極的な部分をさらに伸ばし、課題を改善できるよう検討してまいります。また、授業では、学習の基礎基本の充実とともに、生徒一人ひとりの自己有用感を大切に場面を設定し、協同的で対話的な学習活動（グループワーク等）を盛り込んだ授業を引き続き実践してまいります。先日、3年生の第2回の実力テスト（R6.8.29実施）の結果が出てまいりました。全体的に成績が上がってきており（2年生時R6.1.11実施しました実力テスト5教科の平均点が50ポイント上昇）、生徒たちの学習に対する積極的な姿勢と意識の高まりが結果として表れ始めているように感じます。これらのことを踏まえ、職員の研修会を開き、指導方法の改善に努めていきたいと思っております。これからもご家庭や地域のみなさまと連携し、生徒の成長を支援していきたいと考えます。どうかご理解ご協力をお願いいたします。

### ◇第2回みえスタディチェックについて◇

1月28日（火）に2年生を対象に、第2回みえスタディチェックが行われます。今回は国語、数学、理科の3教科で実施されます。今回もCBT（Computer Based Testing）システムといってタブレットで出題され、解答していく問題です。第1回のスタディチェックで2年生は、教科によっては県平均を上回る結果でしたので、次回も県平均を上回る結果が出せるといいと思います。